

とを示した。(2)では、軌道縞と地形縞との間には入射角を媒介とした単純な関係が成立することをシミュレーションにより確認することが出来、それを利用して比較的簡単に地形縞シミュレーションを行なう方法を開発した。(3)においては、SARの強度に加えて、INSARから得られるコヒーレンスを併用することによる土地被覆判別性の向上の可能性を実験的に検討した。その結果、SARの強度だけでは判別困難な樹種の違いが判別可能になることがわかり、特に、タイのプーケット島においては、マングローブ林がコヒーレンスの併用により判別可能になることがわかった。

■ 1.4 データベース開発運用部

1.4.1. NOAA-AVHRR マンスリーコンポジットの自動作成に関する研究（継続）

（安田嘉純，斉藤元也*，栗屋善雄** * 農業環境技術研究所，** 森林総合研究所）

NOAA-AVHRRの旬データ，月データの自動作成方法について検討している。毎日観測されるNOAA-AVHRRデータを用いて，月別雲域除去コンポジット画像を自動的に1ステップで作成する。今年度は，(1)比演算処理，画像のデジタル拡大を用いたGCPの残留幾何誤差の評価精度の改善，および，(2)学習機能をもつGCPライブラリの作成，(3)コヒーレント，インコヒーレント法を組み合わせた雲域除去方法の検討などを行った。これらの方法はCERESに設備したNOAA-AVHRR受信装置によるデータの処理にも応用できるものである。

1.4.2. 大気および地表面物体の偏光特性の測定とデータベース化の研究（継続）

（安田嘉純，増田一彦*，高島 勉**，川田剛之***

* 気象研究所気象衛星観測システム研究部，** 宇宙開発事業団，*** 金沢工業大学）

ADEOS-POLDERの地上検証などを目的として，地上観測用多重波長偏光放射計（MS-PPHS）やファイバー偏光分光放射計などを試作し，雲，大気エアロゾルの高次パラメータ抽出方法，植生の偏光特性の測定，データベース化について検討した。

1.4.3. リモートセンシングによる植物の診断およびモニタリング手法の研究（継続）

（安田嘉純，磯田昭弘*，高橋邦夫**，小熊宏之***，D.P.パサリブ****

* 千葉大学園芸学部，** 木更津高専，*** 宇宙開発事業団，
**** 千葉大学大学院自然科学研究科生）

環境変化に対する植物の生理機能の変化を，反射および蛍光スペクトル測定により検知する方法について検討している。今年度は紫外線照射，熱ストレス，水ストレスなどの効果について，特に，短時間内のスペクトルの変動について調べた。

1.4.4. リモートセンシングシミュレータによる海岸の砂の二方向性反射の研究

（岡山 浩）

現在行っている研究は，第一に砂や岩石の二方向反射特性の研究で，この研究により，off nadir方向でとったdataはnadir方向でとったdataと異なるという人工衛星dataの補正方法